（様式２）

学　校　関　係　者　評　価　報　告　書

愛媛県立松山南高等学校
学校番号（２１）

評　価　実　施　日		令和５年２月２０日（月）	
委員	氏　　名	所　　属　　等	備　　考
	岡田　紀夫	地元企業関係者	学校評議員
	元永　　学	自治会等関係者	学校評議員
	大内由美子	地元企業関係者	学校評議員
	井上　敏憲	学識経験者	学校評議員
	中村　和憲	食文化・料理研究家	学校評議員
	川端　一徳	保護者	
	堀内　さゆり	保護者	
	篠原　千陽	保護者	

評　価　・　提　言　等	提言等に対する改善方策等
１　全体について	
・全日制、定時制、砥部分校、それぞれが、生徒一人一人を大切にし、個性・能力を伸長させる特色ある取組をしている。 ・説明のプレゼンが分かりやすく、改めて特色のある学校であると感じた。先生方の努力によるものである。 ・コロナ禍であったが、修学旅行等生徒の活動をできるだけ実現していただいたことに感謝する。	・今年度の重点努力目標として、全日制「志高く心を耕し言葉を磨け」定時制「志の教育―夢に向かって心を耕し言葉を磨け」砥部分校「夢を育み、志高く個性を伸ばす教育の推進」を掲げて活動した。今後とも、それぞれの学校の魅力を高める取組を行い連携を深めていく。 ・コロナも３年目となったが、感染予防対策を徹底しながら教育活動を実施できるようになった。これからもできる限り教育活動を止めないようにしたい。

（１）全日制について	
・部活動の成果も素晴らしく、文武両道が実践できている。GSC参加生徒の論文(共著)が欧州学会誌に掲載されるなどこれまでにない成果もあった。 ・教養アップ講座など生徒の知的好奇心を向上させる取組がなされている。 ・言葉が人生を作っている。人から受けた言葉や自分が発した言葉がその人を形成する。表現すること、言葉の大切さを伝えてもらいたい。 ・重点目標に「心を耕し、言葉を磨け」とあるが表現することは大切。生徒一人一人が自分らしく生きていくことにつながればよい。 ・南高生の交通マナーはおおむね良い。引き続き安全指導の徹底をお願いしたい。	・伝統を感じながら、校訓「自らを律せよ」のもと、生徒一人一人が高いレベルの文武両道を目指して良く努力した。 ・部活動においては、今後も、限られた敷地、限られた時間の中で創意工夫しながら取り組み、その中でも結果を出していく伝統をつないでいきたい。 ・「言葉を磨け」の意味を理解させ、人間関係を修復する際に必要な「言葉の力」の偉大さを実感させたい。そして、高校時代に多くの人間関係修復経験をさせ、自らの人間性を高めさせたい。 ・重大な事故は発生していない。頭部を強打したがヘルメットを正しく着用していたため軽症で事なきを得た事案もあった。学生以外も着用が努力義務となるので、登下校以外でも進んで着用するよう努めたい。
・ネットのトラブルが問題になっているが、何かあったらすぐに相談できる環境を整えていただきたい。 ・全日制は、スーパーサイエンスハイスクール５期21年間の先進的な取組が素晴らしい。コロナ禍においても、多くの生徒が部活動で高いレベルの文武両道を目指してよく頑張っている。	・悩みを抱え、不登校傾向となった生徒がいるが、担任、学年主任、スクールライフアドバイザー、臨床心理士が連携し、教育相談機能をを充実させた。今後さらに、生徒たちの悩みに早期対応ができるよう、細やかな面接等を充実させていきたい。 ・本校はＳＳＨ先導的改革型の指定を受け、全国のリーディング校として、ＳＴＥＡＭ教育を核とし、教科横断型授業、産学と連携したデータサイエンス、国際共同研究等に取り組んでいるが、今後も多くのコンテストに挑戦させていきたい。
（２）定時制について	
・定時制については年々人数が減少してきている。定時制の在り方や役割が時代とともに変化してきている。定時制の新たな役割を見つけていただきたい。	・松山地区の中学校等を訪問し学校紹介を行ったり、ホームページ等で生徒の活動の様子を紹介したりするなど、情報発信に努めた。１次の受検者数が昨年度の２倍の24人に増えた。地道な取組が功を奏したのではないか。今後とも、生徒一人一人に寄り添い、生徒の発達や成長を促していきたい。
・グローバル化、情報化が進み、生徒たちを取り巻く環境が大きく変わった。学校としてはどのような対応をしているのか。	・SNSなどを通じてのトラブルは例年数件起きている。スマートフォン等の使用については、警察の方に指導していただいたり、全体で注意喚起を行っている。大きなトラブルに発展する前に事前に相談できる環境、互いの情報交換ができやすい環境づくりに努めていきたい。

（３）砥部分校について	
・砥部分校の活躍をマスメディアやホームページを通じて見聞している。特に今年度は昨年度に比べて、ホームページの更新頻度が早く感謝している。 ・教職員の働き方改革については低い評価となっているが、これはもともとの設定がかなり厳しいものになっているためである。今後とも生徒それぞれの得意分野を伸ばし、自己肯定感を高めることのできるような教育を推進してほしい。 ・今年度は、修学旅行や県展見学会、文化祭、卒業制作展など多くの学校行事を一部制限はあるものの実施できたことはとてもよかった。特に先日行われた卒業制作展は生徒の個性が十分発揮されたユニークな作品が多く、東京藝術大学学長の日比野克彦さんも高く評価していました。今後とも外部依頼も含めて、生徒の活躍する場面を積極的に支援していただきたい。	・砥部分校は、県立高校ではあるが砥部町と強く結び付き、地域活性化の中核的機能を果たしている。今年度はホームページの更新頻度をあげ、少しでも多くの方々に普段の分校の様子を発信できるよう心掛けた。これからも継続していきたい。 　教職員の働き方改革については、さらなる業務内容のスリム化を行うとともに、職員のワークエンゲージメントを高めながら時間外労働の削減に向けて努力していきたい。 ・学校行事を制限を加えながらもすべて実施できたことは、生徒の自己肯定感を高めるうえで大変有意義であった。特に外部の方の評価や感想を聞けたことは生徒にとっても勉強になったし、自信にもつながったのではないか。ただ、学校振興計画が発表されて以降は、外部依頼が急増し一部依頼をお断りもしたが、依頼過多の状況で生徒の負担が増しているため、それを解消すべく来年度は一層精選していきたい。
2　自己評価の項目について	
・全体的に目標を高く設定しているので、Cの評価でも成果があるものもある。これからも特色ある学校づくりを継続してもらいたい。 ・生徒の評価と指導者の評価に隔たりがあるものもあるが、差が出て当然である。指導者は自信を持って教育活動に取り組んでほしい。	・家庭学習時間の確保について、課題の出し方や提出方法を都度確認しながら、学習時間を確保させたい。 ・全国模試平均偏差値について、個別最適な学びを念頭に、ICTの活用も含めて指導方法の工夫をさらに進め、学力の向上を図る。 ・出席率について、コロナも終息を迎えると思われる。コロナ後の生徒の状況、心境に細心の注意を払いながら、接していきたい。出席率も大切だが、欠席生徒へのフォローを周知徹底したい。
3　学校評価アンケートについて	
・『学校は、施設・設備等を充実させ、生徒の学習により良い環境を提供している。』という項目で、生徒、保護者の評価が低い。また、『学校は、保護者や地域と連携・協力ができている。』という項目で、保護者の評価が去年に引き続き低くなっている。 ・生徒指導、特別活動の評価は生徒、保護者、教職員ともに評価が高い。生徒では去年より評価点の平均が上がっているが、教職員、保護者の評価点が去年よりも下がった。	③保護者や地域と連携・協力 ⑤施設･設備等の充実 ⑫南高手帳の活用 ・これらの項目は昨年度も評価は低く、重点的な改善項目と考えられている。 ・③に関してはコロナ禍ということもあって、この数年来保護者や地域との接点が限られていたことが原因と考えられる。 ・⑤に関してはホワイトボードやプロジェクター導入がほぼ完了し、学校整備に関して課題が残ったと考えられる。 ・⑫に関して学校からの連絡がロイロノートやteamsなどデジタル化されており、南高手帳への依存度が低くなってきているのではないか。

４　その他	
・生徒の減少は深刻な問題であるが、松山南校は人気がある。今後もしっかりと情報発信をして、保護者からも「子供を行かせたい学校」と思ってもらえるようにしてほしい。	・(砥部分校)推薦入試は昨年度より志願者数が増加。一般入試の志願者数も現時点では昨年度よりも増加している。報道等で取り上げられることで、砥部分校の取組を広く知ってもらえたということもあるかもしれない。
・生徒の活動等、HPで効果的に発信されている。コロナ禍で得られたリモート等の技術を今後も有効に活用してほしい。	・全日・定時・砥部分がいろいろな場面で交流の場を持ち、オール松山南として活動していきたい。協働することで大きな力を発揮できることもある。昨年本校は１３０周年の節目の年を迎えたが、次につながる財産を築いていきたい。今後、生徒の意見をどう取り入れ反映させるか。生徒の力を信じて育成していきたい。
・高校時代に築いたものはその後の人生に大きな影響を与える。なにかあったらすぐに相談できる環境を整えていただきたい。現代は失敗がネットなどで拡散し、あとあとまでずっと残ってしまう非常に厳しい環境。多様な生徒一人一人を評価し、自信につなげる教育を行っていただきたい。	・ICTの活用が進み、一人一台端末の活用が必須となっているが、メディアリテラシーとともに情報モラル教育の充実にも努めていきたい。